

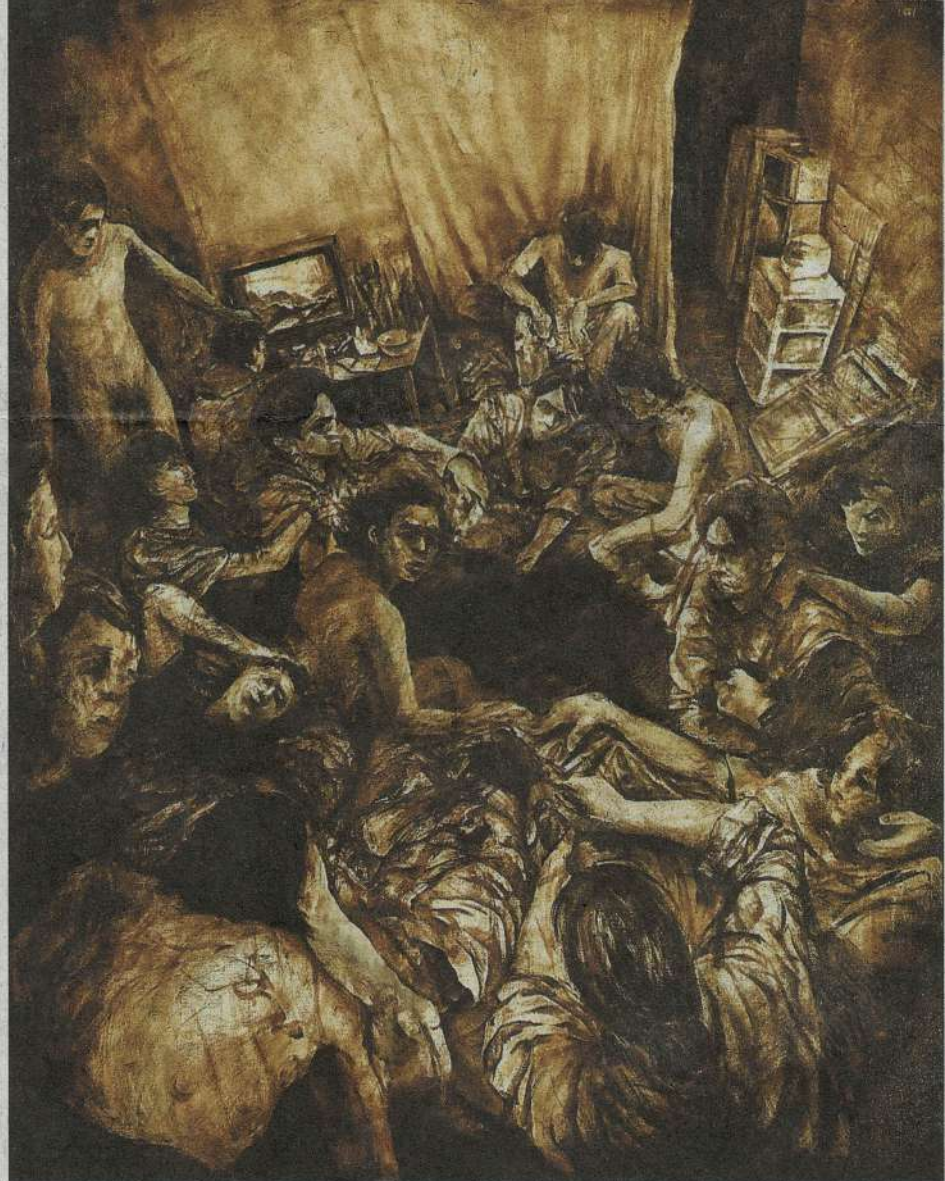
# 熊日大賞 中島さん

(崇城大  
2年)

くまもと

「描く力」

2025



熊日大賞に選ばれた中島康作さんの「沼」

熊本日日新聞社の美術公募展「くまもと『描く力』2025」で、グランプリ部門の最高賞・熊日大賞に、崇城大2年の中島康作さん(20)＝熊本市＝の油彩「沼」が選ばれた。

【3面に関連記事】

# 「描く力」熊日大賞 中島さん 若者の熱気と葛藤凝縮

ふるさと賞・福島さん(甲佐町)、崇城大学賞・伊藤さん(高森)

の中島康作さん(20)＝熊本  
市＝の油彩「沼」を選んだ。  
愛好者向けのふるさと部門  
最上位のふるさと賞は福島  
露子さん(82)＝甲佐町＝の  
油彩「秋」、高校生を対象  
としたチャレンジ部門最高  
賞の崇城大学賞には高森高  
3年の伊藤碧さん(18)＝高  
森町＝のペン画「妖の森」  
にそれぞれ決まった。

## 【1面参照】

中島さんの作品は、知人  
との交流をモチーフにした  
100号。部屋に集う若者  
たちを茶色一色で表現し  
た。審査員からは「若者の  
熱気と葛藤が凝縮された作  
品。やや不穏な空気もあり、  
さまざま読み取りができ  
る」「方法論にとらわれな  
い野性的な勢いがある」と  
高く評価された。

福島さんは、赤く色づい  
た山々の風景を50号に描い  
た。「全体的に力強く、具  
象と抽象のバランスが面白  
い」「古里を愛する気持ち  
が絵の強度につながってい  
る」と評価された。

伊藤さんは、人間と妖怪  
が共存する世界を50号の画

面に精密に描き出した「余  
白を生かしながら、個性的  
なモチーフを一つ一つ丁寧に  
描写している」と評され  
た。

審査員は島敦彦(国立国  
際美術館長)、福田美蘭(画  
家)、鷲田めろろ(金沢21  
世紀美術館長)、熊谷有展  
(崇城大芸術学部教授、チ  
ャレンジ部門のみ)の4氏。  
グランプリ部門に109人  
から127点、ふるさと部  
門に85人から102点、チ

ャレンジ部門に91人から91  
点が寄せられ、入賞・入選  
計147点を決めた。

ふるさと賞と崇城大学賞  
の作品、受賞者それぞれの  
横顔、入賞・入選者名簿は  
熊日電子版のほか、6日付  
紙面に掲載予定。3部門の  
入賞作品と審査員評を紹介  
する特集面は11月下旬ごろ  
掲載する。作品展は11月26  
～30日、熊本市中央区の熊  
本県立美術館分館で開催す  
る。(澤本麻里子)

## 「描く力」今回で休止

熊本日日新聞社は美術公募展「くまもと『描く力』」  
を、本年度の開催をもって休止します。今後は内容を  
改め、熊本県の芸術文化の発展にさらに寄与し、県民  
が広く美術に親しめる機会の創造を目指します。

「平面表現の限界に挑む」をテーマとした「描く力」  
は2014年にスタート。油彩や日本画にとどまらず、  
鉄板や模型を平面に配した前衛的な作品も多数輩出し  
てきました。一方で美術表現や作家を取り巻く環境は  
著しく変化しています。才能の発掘やアートの可能性  
を高めることに貢献し続けるには、時代のニーズに合  
った「新たな場」を提供すべきだと判断しました。  
ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたしま  
す。

熊本日日新聞社

## 「描く力」熊日大賞に選ばれた

なかしま こうさく  
中島 康作さん

茶色一色のモノトーンの世界  
に集い、浮かび上がる人々。個  
々の表情は明確ではない。陰と  
陽、静と動。不思議な感情が  
渦巻いているようで、見る人の  
想像力をかき立てる。

受賞作「沼」は、知人宅に集  
まってにぎやかに交流する様子  
をモチーフにした。絵の具の濃  
淡を生かして人や部屋の様子を  
描いた。「フラットな視点で見  
てほしくて、あえて色を付けな  
かった。人間関係が沼のように  
深く、広がっていく楽しさを表  
現した。感じ方は鑑賞者に委ね  
たい」と笑う。

佐賀県出身で、中学2年で熊  
本市に引っ越した。幼少期から

## ひと



絵を描くのが好きで、必由館高  
の芸術コースに進学。高校時代、  
絵の上達に必要なのは技術だけ  
ではないと気付いた。「自分が  
好きなものは何か。何を描きた  
いのか」。それらを見極め、自  
身の内面を見つめることの大切  
さを実感した。崇城大芸術学部  
では、友人らとの交流や読書な

どを通して「人との関わり」と  
いう描きたいテーマを見つけ  
た。

審査当日はアルバイトとして  
会場にいた。「入賞ぐらいかな」  
と審査を遠巻きに眺めていた。  
期せずして面前で最高賞に選ば  
れ、ぼつぜん立ち尽くした。  
「公募展でのグランプリは初め  
て。ちゃんと評価してもらえて  
うれしい」。最後の「描く力」  
で最年少のグランプリ受賞者と  
なった。

幅広い見方を提供する作品が  
理想で、「世界的な画家」にな  
るのが目標だ。そのためには「健  
康が大切」と、規則正しい生活  
や筋トレでの体づくりを心がけ  
る。熊本市で家族と4人暮らし。  
20歳。(前田晃志)